

スギ花粉症に画期的な治療

口に液剤含む「舌下免疫療法」 ダニ向けの薬も開発

花粉症に悩む人にとって、1年間で最もつらい季節が間もなく訪れます。患者数が最も多いスギ花粉の飛散が始まるからです。しかし、そうした人たちに朗報があるそうです。花粉症治療の最新の動きについて、金沢医科大学病院耳鼻咽喉科の三輪高喜教授に聞きました。

【今月の回答者】

三輪 高喜

金沢医科大学病院
副院長・耳鼻咽喉科教授

日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本アレルギー学会指導医

自分で試し効果実感 副作用の報告もなし

2014(平成26)年10月、スギの花粉症に対する「舌下免疫療法」の薬が発売されました。さらに、昨年11月にはダニに対する同じ療法の薬が出ました。私自身、長年、花粉症に悩まされてきましたが、患者としても、そして治療に当たる立場でも画期的な薬だと思えます。

3つの治療方法に大別 薬、手術に、免疫療法

まず、診察の後、まとめて薬をお渡しすることができ、ご家庭で治療を続けられます。そして、現在のところ、薬を飲むことによるアレルギー症状、アナフィラキシーショックが発生したという報告がありません。

治療です。抗ヒスタミン薬によって、花粉が神経に作用するのを防いだり、ステロイド噴霧薬で炎症を抑える方法です。2つ目は手術で鼻の粘膜や神経を治療する方法です。そして、3つ目が免疫療法です。「減感作療法」とも呼ばれており、新しく出た薬はこの治療方法に含まれます。そもそも花粉症、アレルギー性鼻炎がなぜ発生するのかという点、

スギ花粉の飛散シーズンは間近



スギ花粉やダニ、ハウスダストなどが体内に入り、鼻の中でアレルギー反応を起こし、くしゃみや鼻水、鼻づまりを引き起こす仕組みとなっています。

花粉やダニが抗原に 抗体が反応して症状

これは「抗原抗体反応」といわれる現象です。スギ花粉やダニなどが抗原にあたります。そうした抗原にアレルギーを持つ人の抗体が反応するというわけです。抗原抗体反応が起きると、抗原がくっついている細胞、「肥満細胞」といいますが、この細胞がヒスタミンやロイコトリエンなど

花粉に反応しにくい 体質に変える

花粉症がなぜ発生するのか、その仕組みの話が長くなりましたが、アレルギー体質を変え、アレルギー反応を起こしにくい体づくりを行うのが免疫療法です。免疫療法自体は以前からありましたが、ただ、その方法は注射を使

の有害な化学物質を放出し、鼻の粘膜を刺激し、くしゃみや鼻水などが出ます。当然、抗体を持つていない人はいくら抗原が体内に入ってもアレルギー症状は出ません。しかし、よく「コップの水」に例えられますが、わずかな抗体が徐々にたまり、あふれ出る寸前かもしれません。「花粉症とは関係ない」と言っていた人が「コップがいっぱいになった」ため、急に花粉症の症状を訴えることはよくあります。

つての治療でした。注射の場合、必ず病院など医療機関に行く必要があります。そして、痛い思いをしなければなりません。ごくまれですが、注射によってアナフィラキシーショックを起こすケースも起きていました。昨年末、テレビのバラエティ番組に出ている姉妹の一人がせき止めシロップを飲んで、アナフィラキシーショックで倒れたニュースがありました。

アナフィラキシーショックは最悪の場合、死亡することがあり、注射による免疫療法はあまり普及しなかったのが実情です。新しく出たスギ花粉用「舌下免疫療法」の薬は注射ではなく、液剤です。1日1回、1ミリリットルを舌の下に流し入れ、2分間そのまま口の中に含み、あとは飲み込むだけです。ダニ向けの薬は口の中で溶ける錠剤で、服用の仕方はスギ花粉用と



舌下免疫療法は液剤を舌の下に流し込むだけ

同じです。中身は分かりやすくいえば、抗原です。毎日、抗原を体内に入れ、花粉症に対する慣れを作ろうという狙いです。私も一昨年、発売されて早々に使いました。例年、スギ花粉の飛散時期は抗ヒスタミン薬やステロイド噴霧薬、そして目薬を使っていたのが、昨年は抗ヒスタミン薬

を1回飲んだだけで済みました。

効果は全体の8割 毎日の服用が必要

ただ、すべての人に効果があるとはいえません。まだ統計データは出ていませんが、注射による治療とほぼ同じだといわれています。約6割の方がかなりよくなり、2割ほどの人がよくなるといった形だとみえています。

欠点といえば、スギ花粉が飛散する数カ月前から始める必要があります。花粉の飛散に関係なく、毎日の投与を2〜3年続けなければならぬのと、のどの刺激感や、一時的ですが、口の中に腫れが出る人が一部にいることです。

アナフィラキシーショックなど副作用の報告は臨床実験段階を含めてまだありません。厳密にいえば1例あるにはあったのですが、投薬時ではないため、薬による副作用ではないとみていいと判断しています。

公的保険の適用対象

月当たり約900円

公的保険も適用されます。3割

自己負担で、1カ月当たり約900円です。1年間で約1万円です。花粉の飛散期に医療機関で処方される薬の値段の合計とそれほど変わりはありません。市販薬に比べてもそんなに高くありません。

また、市販の点鼻用スプレーは、長期間の連用で、薬物性鼻炎を起すこし、鼻の腫れが引かなくなり、手術で治すしかない状況になることもあります。

やはり、医療機関で診断を受け、治療するのがいいと思います。

資格が必要な舌下療法 合格の医師が取り扱い

舌下免疫療法の薬を使うには資格が必要です。薬品メーカーが講習と試験を実施しており、試験に合格し届け出を行った医師だけが取り扱えるようになっていきます。耳鼻科や呼吸器内科、アレルギーを診療している内科のお医者さんが中心です。

花粉症は確実に増えています。30年前の学校検診では、花粉症などアレルギーによる症状を訴える子どもが10%もいなかったのに対し、現在、国民の半分以上がスギ

花粉の抗体を持ち、3割以上が患者だといわれています。

増加の背景に衛生事情 アレルギーは先進国に

増えた理由は衛生状態にあるとみられています。世界的にも、発展途上国にはアレルギーによる疾患がほとんど見られません。アレルギーに関連する病気が見られるのはヨーロッパや米国、日本などから、先進国は赤痢など感染症

を克服したものの、その代わりにアレルギー疾患が出てきたといわれています。

衛生環境が悪ければ、人間の体は感染症などに対抗するため、リンパ球の一つであるTh1細胞を増やします。この細胞はアレルギー反応も抑える作用を持っています。

しかし、衛生状態がよくなると、ばい菌に対する心配がなくなるため、Th1細胞に代わって、Th2細胞が増加します。この細胞はアレルギー反

アレルギー症状の起き方



の細胞はアレルギー反応を促進するため、結果的にアレルギーを訴える人が増えたと考えられるのです。

最初に、花粉症治療には3つの方法があるといいました。そのうち、薬による治療は一時的な効果しかありません。長い目で見れば、アレルギー体質を改善していく免疫療法、特に新しい「舌下免疫療法」は試してみる価値があります。